

CGF, AFGについて

CGF (Concentrated Growth Factors) 自己血液フィブリングゲル

AFG (Autologous Fibrinogen Glue) 抗凝固剤が入っていない自然状態に最も近い血漿

当院では、インプラント手術で土台となる顎の骨を再生させたり、埋伏智歯を抜いてできた穴に歯肉と骨を再生させる処置に、CGFとAFGを応用しています。これによって、治癒期間が大幅に短縮すると共に、術後の痛みや腫れも抑えることができます。

その利点として

- 手術後の痛みが少ない。
- 止血作用がある。
- 感染を防止できる。
- 傷の治りが早くなる。
- 骨が少ないところに使用すると、骨が再生するための足場となる。

1 採血をします。

必要量(7cc)を採血します。献血で使用される針に比べて細いので、痛みはほとんどありません。ガラス管を使ってCGFを、プラスチック管を使ってAFGを作成します。

2 血液を遠心分離機で分離します。

採血した血液の入っている試験管を、遠心分離機で13分ほど回転させます。

3 血液中の血小板や赤血球が分離されます。

一番上の黄色い液体が血清で、真ん中にある半透明のゲルがフィブリンゲル (CGF)、最下層が赤血球・白血球などの血球成分に分かれます。

4 フィブリンゲル (CGF) を取り出します。

フィブリンゲル (CGF) は、プルプルしたゼリーのように弾力がありますので、つまんで試験管から取り出します。抜歯した部分に添加したり、サイナスリフトの時に挿入します。

吸収性の膜の代わりに使えます。

5 プラスチック管の、血漿成分をシャーレに取り出し、骨補填剤と混合すると、塊となって操作性が向上します

以上のようにCGF AFGは次世代の血小板濃縮フィブリン製剤として、歯科分野や再生医療分野での応用が大変期待されています。

※フィブリンとは血液の凝固に関わるタンパク質。止血の中心的な役割を担っています。